

Harmony

「自信作」

教頭 佐々木 友紀

忘れられない卒業式がある。それは、令和2年3月の卒業式である。直前に新型コロナウイルス感染症対策のため一斉休校になったあの時である。当時、3学年主任をしていた私は一斉休校宣言に茫然自失となった。入学当初から問題が絶えず、最上級生になってやっと落ち着き、県立入試の出願も終えて、卒業式までの巣立ちの計画も立て終わった矢先。それなのに一転して、卒業式の実施さえも危ぶまれた。「一体どうなるんですか」と詰め寄る気持ちにもなれないくらいあっけにと取られていた。県立入試直前の勉強のペースが落ちないかだけが心配だった。

親子関係が悪いA男がいた。毎日、遅刻してきた。何を言っても糠に釘。一斉休校になったからといって家庭に戻してしまえば無気力に拍車がかかってしまう。今だから言えるが、公民館で勉強会をしようとA男だけではなく不安な生徒も何人か呼んで勉強会を開くことにした。しかし、公民館から学校に連絡が入って公民館計画は中止。次に、こっそりと体育館の器具室に呼んで勉強会を再開した。ただ必死だった。

卒業式直後には3学年主任の挨拶がある。答辞に入れたい言葉をアンケートで募集していた。同時に、「義務教育を終えるにあたって保護者にひとこと」も書いてもらっていたので一部を紹介した。読み上げながら、泣いている保護者の方がいらっしゃることに気づいた。保護者がいちばんわが子を心配している。保護者に負けない愛情をもって育ててきたつもりだったが、やはり家庭の「作品」なのだ。合唱練習もままならなかったが、教職員と保護者に見送られながら「あなたへ」を歌って巣立っていった。その生徒たちも先日、二十歳の集いで5年ぶりに集合した。A男が積極的に私に近づいてきて「俺、今、大学生しているんですよ。高校ではいっさい遅刻しなかったんです。これってまじめにやったほうですかね。」いちばんうれしい報告だった。5年たって初めて、彼らと向き合った3年間でやっと自信にしているのだと思えるようになった。私の「自信作」であった。

3年生は学校の顔である。そして合唱は例えるならばその学校の「基礎体力」だ。一生懸命歌える生徒に悪い生徒はいない。3年生の合唱を聞いて、そして全校合唱の姿を見て改めてそう思った。1、2年生のみなさんは3年生の背中を忘れないでほしい。3年生のみなさんは、各家庭で大事に育てられた生きた作品であり、中田中学校の生きた「自信作」である。自信をもって幸せになってほしい。それでももし迷ったときは頼ってほしい、そう思っている。

2月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4 新入生説明会	5	6 市英単語コンテスト	7 5限：授業参観	8	9
10 県立推薦入試	11 建国記念の日・県書初大会 ワックスがけ	12 社会に学ぶ『14歳の挑戦』発表会	13	14	15	16
17 部活動停止	18 5、6限：合同国語	19 短縮日程 部活動停止	20	21	22	23 天皇誕生日
24 振替休日	25 部活動停止 (27まで)	26 4教科期末考査 14:40下校	27 期末考査 14:40下校	28 期末考査 部活動 16:20まで		